



請戸の田植え踊り 今年もぶじ奉納

▲田植え踊りの奉納(2020年2月16日 毎日新聞 和田大典撮影)

2月17日 福島民報、河北新報、毎日新聞写真部) 東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた福島県浪江町請戸の吾野(くさの)神社で16日、江戸時代から続く伝統行事「安波祭(あなばまつり)」が催された。当日は朝から小雨が降り、境内にテントを張って実施した。津波に流された社殿跡で神事や雅楽の演奏が行われ、県内外に避難している請戸芸能保存会が復興や豊漁豊作を願い、神楽や請戸の田植踊を奉納した。

we support ↓



MONTHLY

「東北に黒幕を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
復興支援「すけさきた」しんぶん
かめらぼん

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である



▲請戸伝統の獅子踊り



▶テントの下で記念撮影

請戸の田植踊は七歳から四十代までの女性十人が鮮やかな衣装を身にまとって繰り広げた。このうち、石塚亜恵羅(あえら)さん(10)は宮城県名取市在住で、地元の出身ではない。震災後、知人の誘いで踊り手となった。「もっとうまくなりた。伝統を継承できるよう来年も頑張る」と表情を引き締めた。

両親が町の出身地で昨年からの踊りに加わっている鈴木寿奈さん(7)は南相馬市原町一小1年。去年は100点だったが、今年には1万点の出来。みんなが笑顔になってくれてうれしかったと笑みを浮かべた。

請戸芸能保存会会長で吾野神社総代長の渡部忍さん(70)はいわき市に避難。津波で請戸の住民同士をつなぐものはあまり残っていない。祭りは心のよりどころ。続けるのが使命だ」と自らに言い聞かせるように語った。

安波祭は避難指示の一部解除を受け、2018年2月に現地地で再開した。震災前、田植踊は請戸小の児童が受け継いでいた。

新型コロナウイルスの影響により 東日本大震災追悼式 取りやめを閣議決定

(3月6日 NHK NEWS WEB)

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、政府は3月11日に予定していた東日本大震災の追悼式を取りやめることを6日の閣議で決定しました。

東日本大震災ではいわゆる「震災関連死」を含めて死者や行方不明者が2万人を超えるなど甚大な被害が出たことから、政府は追悼式を重要な行事と位置づけてきました。

このため被災者の心情にも配慮し、当日は総理大臣官邸で安倍総理大臣が関係僚らとともに震災が発生した時間に合わせ犠牲者に黙とうを行うとともに、追悼のことは述べることにしています。

【被災地の対応】

岩手県の久慈市と金ケ崎町、宮城県の塩釜市の3つの自治体が式典を中止します。時間の短縮や献花だけを行う方式にするなど式典の見直しを行ったのは仙台市や盛岡市、岩手県釜石市、福島県のいわき市など29の自治体となりました。

岩手県の大槌町は式典を延期します。

福島県の楢葉町は屋外の会場ですら人数で開催するため、感染のリスクは低いとして追悼式を予定通り実施するとしています。

東日本大震災から9年が経過しました。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興と、これからの日々を平穏をお祈りいたします。

令和2年3月11日 西表島エコツアーリズム協会